

## 城北防犯パトロール隊（香川県）

こんにちは。城北防犯パトロール隊事務局長の近藤です。今日一緒に発表するのは、パトロール隊を陰で支えてくれている城北小学校の有岡教頭先生とアシスタントとして防犯協会の佐々木さんです。私たちの活動事例が同志の方々の活動に少しでもお役に立てれば望外の喜びです。



### 活動地域の紹介

香川県丸亀市城北地区・・・ここが私たちの活動している地域です。



日本一狭い面積の香川県は穏やかな気候風土で、およそ犯罪とは縁遠い地域と思われがちですが、いろいろな事件も発生しております。丸亀市は県の中ほどに位置し、国の伝統産業である「団扇」の生産量は、日本一を維持しております。また、「骨付鳥」は「さぬきうどん」とともに、今盛んに売り出している名物です。

私たちの活動の場である城北地区は、丸亀市の北部に位置し、南北に細長く、住宅地を中心に昔ながらの商店街や港が混在する町です。約 2,900 世帯、6,500 人余りが住み、児童数は約 340 人です。現在は産業形態の変化から海を埋め立て、そこに競艇場、大型ホテルや工場もできて、人の出入りが多くなり、防犯の観点からも注意を払う必要のある町に変貌しております。

私たちの活動拠点は、この丸亀市城北地区の城北コミュニティセンター内にあります。

### 城北防犯パトロール隊の結成

パトロール隊結成の経緯は、平成 17 年に入った頃、この地域の児童が公園のトイレなどで写真を撮られるという事件が発生したことがきっかけです。同じような事件がたびたび発生するようになり、危機感を抱いた校長先生から、「子どもを守りたい」という相談を受け、地域の有志で話し合い、保護者・住民に呼びかけて1カ月余りで「地域の子どもは地域で守ろう」という強い意思のもと、「城北防犯パトロール隊」を結成することになりました。発足式は平成 17 年8月 28 日、夏休み明けから活動を開始するぎりぎりのタイミングでした。発足時の参加者は約 80 名でしたが現在は 265 名に増え、隊員それぞれが自分の身の丈に合わせた方法でパトロールに参加して下さっております。

### 城北小学校との連携

パトロールを始めた頃は、まだパトロール隊員の顔を覚えられておらず子どもにうかつに声をかけると不審者扱いをされる頃（児童が隊員の「顔」を知らなければ、声をかける人を不審者として認識しても不

思議ではない状況下)でした。そこで、子どもたちの不安を取り除くことも含めて、子どもたちとパトロール隊との「つながり」をつくろうと、入学式後の早い時期に、お互いの顔を合わせる『対面式』を始めました。

対面式は、現在も防犯協会などの支援を受けて毎年4月に実施し、隊員は『子どもの笑顔と未来を守りたい!』との強い意思を持ち、その言葉を地域全体の合言葉にしてパトロールを続けております。パトロール隊員らしい服装や装備品については、寄付や警察庁からの貸し出しを受け、順次整えました。

今では、セーフティトライアングル(地域・警察・行政が三位一体となって安全安心まちづくりに取り組む活動)やメロディ下校(参加車両が防犯意識啓発用の音楽や広報を流しながら通学路、地域全体を万遍なくパトロールすることで、犯罪抑止効果を狙った取組)ができるまでに活動の場が広がりました。

また、パトロール隊と学校や行政を交えた意見交換会を適宜開催し、お互いの抱える問題を解決する場としています。話し合うことで、より連携の取れたパトロールができています。そのときの内容は、城北防犯パトロール隊報告書にまとめ、関係者に配布しており、現在、第 53 号まで発行して、情報共有の大事な役割を果たしております。

### 城北小学校との連携

◆毎年恒例、4月に児童と隊員の**対面式**を開催

お互いが顔を知り、  
ふれあい、交流を  
もつことが大事!



みんなの願い『**子どもの笑顔と未来を守りたい!**』

## ～小学校からパトロール隊へ～    ～小学校から地域へ～

「どうすれば効率的なパトロールができるか?」と、いろいろ話し合い、一つの方法として、児童の下校時間を手紙で隊員に知らせ、協力を仰ぐという方法をとりました。手紙の表面は、校長先生とPTA会長の連名で、隊員及び地域の方々に向け、児童が下校する時間帯を中心に見守りをお願いしますといった内容の文面になっています。手紙の裏面は、校長先生の直筆で、温かく思いのこもった保護者向けの手紙です。この部分で、パトロール隊のことも触れてくれており、私たちの活動が保護者に伝わっているのです。このような手紙をパトロール隊員に配布してパトロールへの協力をお願いしているのです。手紙の中央付近に描かれているハートマークはなんとも心をほんわかとしてくれ、頑張ろうという気持ちを駆り立ててくれます。また、これを機会に、児童から隊員に手紙が届くようになり、お互いの心が通い合い始めると、隊員のパトロールの力はまさに百万馬力の域に達しているようです。

### 小学校からパトロール隊へ

| 日  | 曜日 | 下校時刻  | 日  | 曜日 | 下校時刻       |
|----|----|-------|----|----|------------|
| 1  | 次  | 14:00 | 12 | 土  | 2:30 水     |
| 2  | 火  | 15:00 | 13 | 日  | 2:40 水     |
| 3  | 水  | 15:00 | 14 | 月  | 1~7年 15:00 |
| 4  | 木  | 15:00 | 15 | 火  | 4~6年 15:00 |
| 5  | 金  | 15:00 | 16 | 水  | 2~5年 15:00 |
| 6  | 土  | 15:00 | 17 | 木  | 1~4年 15:00 |
| 7  | 日  | 15:00 | 18 | 金  | 1~4年 15:00 |
| 8  | 月  | 15:00 | 19 | 土  | 運動会        |
| 9  | 火  | 15:00 | 20 | 日  | 運動会        |
| 10 | 水  | 15:00 | 21 | 月  | 1~4年 15:00 |
| 11 | 木  | 15:00 | 22 | 火  | 4~6年 15:00 |
| 12 | 金  | 15:00 | 23 | 水  | 2~5年 15:00 |
| 13 | 土  | 15:00 | 24 | 木  | 1~4年 15:00 |
| 14 | 日  | 15:00 | 25 | 金  | 1~4年 15:00 |
| 15 | 月  | 15:00 | 26 | 土  | 運動会        |
| 16 | 火  | 15:00 | 27 | 日  | 運動会        |
| 17 | 水  | 15:00 | 28 | 月  | 1~4年 15:00 |
| 18 | 木  | 15:00 | 29 | 火  | 4~6年 15:00 |
| 19 | 金  | 15:00 | 30 | 水  | 2~5年 15:00 |
| 20 | 土  | 15:00 | 31 | 木  | 1~4年 15:00 |

**児童の全登校日、登下校の時間帯に合わせてパトロールをしています。**

城北防犯パトロール隊員様  
〒100-0001 東京都千代田区千代田 千代田小学校 校長 藤田 和之  
副校長 山本 智樹  
PTA会長 水本 智樹

下校時刻のお知らせと見守りのお願いについて

### 小学校から地域へ

ほくほく 児童部活動の発展 No.45

**45人の新しいなかま**

「心あったか」

「心あったか」

「心あったか」

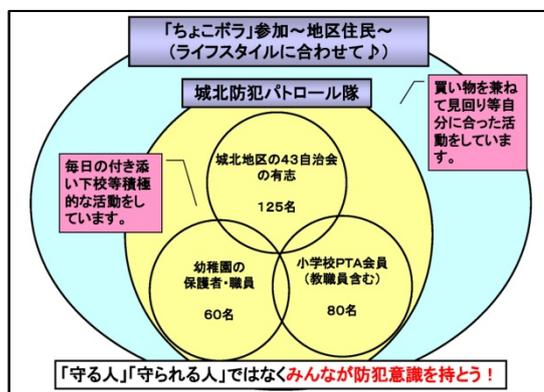
「心あったか」

**今ではめずらしい手書きの便りです。校長先生が書いています。パトロール隊の活動の様子もしっかり伝えてくれます。**

城北防犯パトロール隊員様  
〒100-0001 東京都千代田区千代田 千代田小学校 校長 藤田 和之  
副校長 山本 智樹  
PTA会長 水本 智樹

## やっぱりパトロール！

不審者に対しては、やっぱり人の目による見守りが一番効果があるように思います。そこで隊員同士の情報交換や連携、組織運営に工夫を凝らした活動を続けております。「みんなで楽しくちょこっとボランティアしよう♪」これが私たちの活動のバックボーンになっております。子どもの見守りパトロール、生活の中での見せる防犯パトロールなど、「主役はわたくし」。そして地域で居心地の良い場所をどんどん増やしていこうと、お互いが知恵と力を出し合い、点と点を結び、それが面となって活動の輪が広がっております。

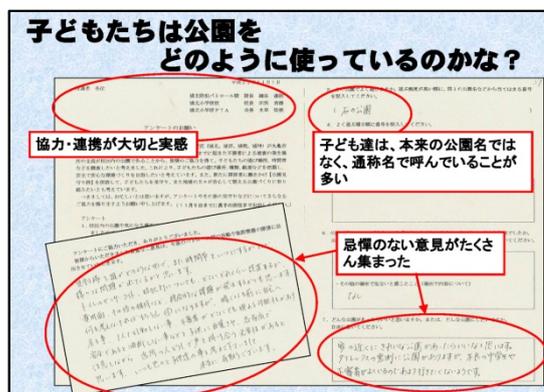


## 『公園みまもり隊』もできたよ☆☆

本来、憩いの場であり、安心して遊べるはずの公園で、再び事件が発生しました。事態を重く見た関係者が「安心して遊べる公園を取り戻したい！」との思いで、『公園みまもり隊』の立ち上げを考えました。そこで公園や遊び場の実態を知るために、公園の調査を始めました。学校と保護者に協力を仰ぎアンケートを実施しました。アンケートは、①公園及び遊び場の特定②利用日時③利用頻度④遊具⑤周りの状況などについての項目で、その回答率は62.8%でした。回答の中にはいろいろな意見がありました。やはり人の目による見守りが、不審者に対して抑止効果が高いことが分り、公園の近くに住む人たちを中心に『公園みまもり隊』を発足させることにしました。

パトロール隊・小学校・PTAの連名で実施したアンケートは、その回収率の高さから、お互いの深い協力関係、緊密な連携が図られている証だと思っております。

アンケートでは、子を思う親心から多くの意見をいただき新しい発見もたくさんありました。子どもたちは、本来の公園名ではなく、鉛筆公園やドカン公園などの愛称を付けていたり、自分たち独自の隠れた遊び場を作って、工夫しながら自由に遊んでいることも分りました。



## 完全手作り 冊子「みんなの公園」

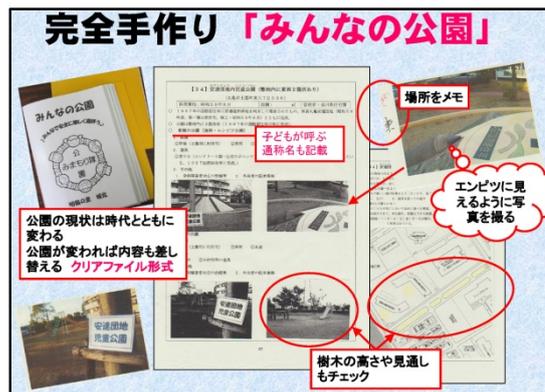
次に、寄せられた情報をどのように活用すれば、公園の利用と今後の安全で安心な公園づくりに役立てることができるのかを考えました。

アンケートを分析し、

- ・ 城北地域すべての公園を1枚の地図に記入する
- ・ 見開きのページで一つの公園情報をまとめる

・ 公園周辺の状況がわかるような表記をするなどの作業手順を確認し、各公園を再度調査して、公園の特徴、付近の歴史などに加え、写真も添付することになりました。

公園を取り巻く環境や公園自体も時代により変化していくことを踏まえて、いつでも最新の情報に差し替えることができるようクリアファイル形式で製本しました。できあがった冊子は、小学校や幼稚園、市の公園担当者などの各関係機関に手渡して配り、有効に活用してもらっています。



## 「安心して公園で遊ぼう」キャンペーンの開催



公園で、遊ぶ子どもや地域住民が一緒になって防犯意識啓発活動をすれば、交流を図ることができ、楽しみながら防犯力の向上につながるのではないかと考えて「安心して公園で遊ぼうキャンペーン」を開催しました。

具体的には公園みまもり隊による防犯紙芝居の披露、折り紙などの伝承遊びなど隊員がそれぞれの得意分野で力を発揮しております。

その中に、子どもたちには耳慣れない言葉・・・「特攻帽」がありました。隊員が、その言葉の意味を説明しながら新聞を折って作ってくれた特攻帽。ことのほか喜ばれ、気がつけば参加者の心が一つの輪になっていました。このキャンペーンをやってよかったなー。と感謝の気持ちでいっぱいです。(この特攻帽をブロック別フォーラム会場で発表者の方に配布させていただきました。)

## 公園の防犯環境整備～地域のつぎは行政の出番です～



いろいろな出来事の積み重ねが付近住民や行政の意識を変え、行政も本気で取り組んだ結果、公園は安全性を保てるようになり、安心して遊べる明るく清潔な場所に変身しました。

例えば、防犯灯が設置されているところでも不審者が出没したり、公衆トイレの屋根に有害図書が置かれたりしたことで、これらの不審事案をなくそうと、市の公園担当者がソーラー式センサーライトを取り付けました。また、防犯カメラ付き緊急警報装置も設置して、有事に備えた付近

住民による「駆けつけ隊」も組織しました。樹木の管理の際には、見通しを確保する「安全性重視の剪

定」に変わりました。

行政と連携しながら見事に変身してゆく公園…何より人の目、地域の目、この「目」が安全・安心を生み出し、温かみや優しさもある安全で安心な公園が生まれたのです。

## 生活の中で見せる防犯

次に、パトロール隊の7つ道具を紹介します。まず、手縫いの小袋には、下校時に怪我をしたり鼻血を出した子どものために少しの医薬品、何かあった時のためのメモ帳、隊員の安全を守る笛など、活動の中で必要な物が入っています。また、地域の皆さんから公募して作った主婦目線のオリジナル防犯エコバックは、パトロールや買い物の時だけでなく、その厚手のしっかりした生地で作られた機能性から仕事に利用されることも多くあります。出掛ける時は防犯エコバックを手に、自転車には防犯プレートをつけ、ジャンパーをお洒落に着こなして「見せる防犯」が定着するようになってきました。

ちょこっと防犯、ちょこっとボランティア…そのちょこっとが積み重なると大きな成果が生まれます。讃岐の言葉で「少しだけ」、そう…「ちょこっとだけ」、人の意識を変えるとすべてが変わります。不審者を寄せ付けない防犯環境づくりに積極性が出てきました。人と人とのつながりが深まり、安全で安心な町になり、「改革・まちづくり」の意識も高まりました。人と人の心をロープでつないだように、長い輪ができました。これが地域ぐるみでパトロールをしてきた成果だろうと自負しています。

### ♪これぞ『ちょこボラ』効果♪

これからもちょこっと精神をどんどん発揮して前に進みたいと思います。隊員の健康管理にも気を配りたいと思います。健康であることで、できることはたくさんあります。(当日会場にて配布した団扇<sup>うちお</sup>に触れ…)皆さんにお配りしているのは丸亀特産の団扇<sup>うちお</sup>です。我々も内輪<sup>うちわ</sup>でそろそろ防犯に頑張っていこうと思います。



### ♪これぞ『ちょこボラ』効果♪

- 隊員が楽しんで活動することによる地域力の向上
- 不審者を寄せ付けない防犯環境づくり
- 人のつながりの強化から生まれる安全安心なまち